国語（中三）（俳句）＊解答・解説

使用教材　「俳句の可能性」（光村図書　P66 ～ P70）

川越市マスコットキャラクター

（1）　五・七・五

俳句は「五・七・五」の三句十七音が基本となります。

どの子にも　涼しく風の　吹く日かな

上の句（五音）　中の句（七音）　下の句（五音）

（2）①　・季節が夏であること。　・子供が複数いること。
・子供たちに涼しい風が分け隔てなく吹いていること。

②　かな

切れ字とは、「や・かな・けり」など、意味（文）の切れ目を示す語です。また、切れ字の付いた語が感動の中心と考えてよく、次の句では、「菜の花」が感動の中心となっています。使う時は、一句中に一つだけ使いましょう。

菜の花や月は東に日は西に

（3）①　自由律俳句　②　無季俳句

自由律俳句には、こんな俳句もあります。

あるけばかつこう　いそげばかつこう

八音　八音　＝　二句十六音

☆（4）

	①	②	③	④
季語	柿	菫	小春日	サングラス
季節	秋	春	冬	夏

①は正岡子規の最も有名な俳句の一つです。
②の作者は夏目漱石です。漱石は親友の正岡子規から俳句を学びました。
③の作者は村上鬼城です。小春日とは春ではなく、暖かい冬の日のことをいいます。この句では赤蜻蛉が季語ではないので注意しましょう。
④の作者は黛まどかです。サングラスとは、夏の強烈な紫外線から目を守るための色つき眼鏡のことなので、夏の季語になります。